

請願一覧（教育委員会関係）

[平成28年9月5日審査]

(審査順)

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成28年請願第7号 瑞穂区及び熱田区にスポーツセンターの建設を求める件		
1 瑞穂区及び熱田区にスポーツセンターを建設すること	<p>本市においては、昭和57年の露橋スポーツセンターをはじめとし、順次、競技場、トレーニング室、温水プールなどを備えたスポーツセンターを建設してきた。</p> <p>瑞穂区については、トレーニング室や温水プールが瑞穂公園内にあり、新たに体育館の基本設計に本年度から着手する予定である。</p> <p>熱田区については、現在名古屋市体育館を順次施設改修しており、本年度は空調設備等の設計を行っている。</p> <p>両区においては、アセットマネジメントの考え方にに基づき、現在あるスポーツ施設を活用しながら、スポーツ環境の整備・充実に努めている。</p>	不採択

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成 28 年請願第 10 号 小学校給食調理業務等の民間委託撤回を求める件		
1 名古屋市立の小学校の給食調理業務の民間委託を行わないこと	平成 28 年 2 月市会において、給食調理業務の民間委託の導入にかかる 28 年度予算をお認めいただき、現在、小学校 3 校において民間委託により給食を提供している。	審査打切
2 給食調理業務に欠かせない技能及び経験の蓄積や継承が可能である、安定的な正規雇用の調理員を増やすこと	給食調理員など技能労務職員については、全市的な方針で退職不補充とされている。 給食調理業務の執行体制については、民間活力を導入しながら適切で効率的な体制づくりに努めているところである。費用対効果	不採択
3 名古屋市立の中学校の給食も、自校調理方式の学校給食にすること	本市の中学校給食については、市民 1 万人アンケートを経て、調理は民間調理場で行い、複数メニューが選択できる給食と弁当の併用という形のスクールランチとして実施しており、毎年行っている生徒、保護者のアンケート調査では、現在の方式を望む声を多くいただいている。	不採択

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成 28 年請願第 4 号 子供の成長を支える学校給食であり続けるために、小学校給食調理業務の民間委託撤回を求める件		
2 名古屋市立小学校の給食調理業務は、民間委託を行わず、教員・栄養教諭または学校栄養職員・調理員が一体となって安全・安心でおいしい給食を提供できるよう、名古屋市が責任を持って実施する体制を整備すること。	給食調理業務については、現在、小学校 3 校において民間委託により給食を提供しているが、課題として、日常的に委託事業者の管理を行い、かつ、児童への食育指導の時間を確保できる体制づくりが必要と考えており、対応について早急に検討してまいりたい。	保 留

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成 27 年請願第 10 号 千種図書館の新築等を求める 件		
1 千種図書館の新築等をするに 当たっては、以下を実現するこ と。 (1) 耐震での心配があるため、安 全・安心な建物にすること。 (2) 誰もが安心して利用できるバ リアフリーにすること。 (3) 建物全体を広くすること。ま た、常設の自習室、会議室、親子 でくつろげる部屋、機器活用スペ ースなどの設置がある図書館に すること。 (4) 新築、移転に当たっては、駅 に近い場所に設置すること。 (5) 新築、移転に当たっては、意 見や要望が反映されるワークシ ョップを開くこと。	千種図書館については、老朽化が 進んでいることと耐震対策、一部の バリアフリーが未対応であるため、 整備が必要であると認識しており、 図書館として望まれる機能の充実 を図り、効率的な整備手法の方向性 を早期に定めてまいりたい。	保留

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成 27 年請願第 15 号 子供たちが健やかに育つために公的保育制度の堅持を求める件		
8(6)イ 校舎老朽化及び生徒数増加による教室不足を改善するため、天白養護学校を早急に建てかえること。	同じ敷地内の公所等において、敷地内での移転改築を進める動きもあることから、関係局と調整を図りながら、今後の特別支援学校の生徒数の推移を見極めつつ、検討を進めてまいりたい。	し 保 留

事 項	局の考え	取り扱い(案)
平成 28 年請願第 3 号 子供と保護者が安心できる少人数学級の拡充を求める件		
1 学級編成基準を緩和し、名古屋市立の小学校、中学校及び高等学校の全学年に正規の教員配置で少人数学級を早急に拡大実施すること。 生活習かん 学習 急げな変化	本市においては、平成 19 年度より全ての小学校 1・2 年生において 30 人学級を、平成 21 年度より中学 1 年生において 35 人学級を実施している。 その他の学年については、少人数指導やティームティーチングを組み合わせ、柔軟に学習集団を編成しており、一定の成果をあげているところである。	保 留
2 特別支援学校をふやし、子供たちを大切にす教育を進めること。	特別支援学校を希望する児童生徒の受け入れができるよう、環境を整えることは大変重要なことと認識しており、名古屋市としては、当面必要な教室数を確保するために、平成 27 年 4 月に南養護学校分校を開設し、教室不足への対応をすすめている。 なお、特別支援学校の新設について、設置義務のある県に要望していく。	保 留

県はどうか、23の9